学校番号	２１０２

令和３年度　芸術科　書道

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	書道Ⅱ「書Ⅱ」　（教育出版）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道の幅広い活動を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、探究心を育成し、表現と鑑賞の能力を伸ばす。様々な書体の古典を学習することで、文字の発展の過程や時代背景など理解を促す。

また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。

２　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身につけ表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	提出作品 ワークシート	提出作品 ワークシート	提出作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間	「篆書」 古典臨書 ・泰山刻石 ・石鼓文 ・金文 ・甲骨文 など	篆書の用筆法を理解し、習得する。(逆筆・蔵鋒) 文字の均整など、当時の文字に対する美意識を臨書によって体感する。 明・清時代の古典臨書などを参考に、用筆法・表現の工夫などを鑑賞する。 篆書の変遷(時代を遡る)を学習していくことで、漢字の成立ちや構造を学習する。(象形・指示・会意・形声など) 各時代の文化と関連付けて、篆書の変遷を考える。	○	○	○		a:歴史的背景を理解し、漢字への関心を深め、積極的に取り組み、技術の習得に努めているか。 b:用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を考え書作しているか。 c:各古典の特徴を理解し、当時の美意識を感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート 観察
	「隷書」 ・木簡 漢碑を中心に学習 ・曹全碑 ・乙英碑 ・石門頌 など	書体変遷の中の、隷書の成立ちを考察し、隷書における美意識・書体の特徴を理解する。 「木簡」 篆書や行草書との用筆法の共通点を観察し鑑賞することで、創造的に書作する。 「漢碑」 木簡などの書体との技術的共通点と、楷書と比較・鑑賞していくことで、文字変遷の中の隷書と違う書体について考察し、創造的に書作する。	○	○		○	a:積極的に取り組み、技術の習得に努めているか。 b:隷書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を観察し表現を工夫できているか。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート

	「隷書」「篆書」作品制作 （文化祭出品作品）	学習してきた内容をふまえ、自分の興味・関心の高かった古典を半切程度に書作する。 作品サイズ・文字の大きさなど、作品の構成などは各自で工夫する。 押印し、時間が取れれば表具する。 題材は教科書を利用し古典臨書の作品とする。 題材への興味・関心、書作時の工夫など、自己批正を行うことで、鑑賞能力の向上をまざす。	○	○		○	a：選択した古典の表現に創造的・積極的に取り組めているか。 表具する場合、自他の作品が唯一物であることを自覚し、丁寧に扱えているか。 b：特徴を理解し、点画を観察し、古典の技法を表現できているか。 作品の構成を工夫しているか。 d：古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート
	「篆刻」作品制作 ・選文 ・印稿 ・布字 ・運刀 ・押印 など	印の歴史を学習し、実際に漢時代の官職印を参考にした自用印を作成する。 印の製作にあたり、各手順でのポイントを明確にし、印刀の使用に当たっては、安全面・器物の破損のないようにする。 印のサイズは一寸角を使用する。			○	○	c：漢時代の印の特徴を理解し、構築性のある印面制作が出来ているか。また、用具の使用方法を十分に理解し作品が制作されているか。 積極的に技術の習得に努め、物品・器物への取り扱いに注意し、安全に作業が行えているか。 d：漢字代の印の特徴を理解し、当時の美意識を感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート

期末	「草書」「行書」 ・十七帖 ・書譜 ・祭姪文稿 など	書体の変遷における行書・草書体の特徴を理解し、発生の歴史的背景を理解する。 様々な古典臨書を通じ、変化に富む用筆法を観察し行書体の跳動感やリズム感を表現していくことで、技術の向上と鑑賞能力の向上を図る。 細字での学習を行い、自分の名前を書けることを目標に取り組む。	○	○		○	a:積極的に取り組み、自分の名前を書くに当たっての技術的共通点を興味・関心を持って提案しているか。 b:行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を表現できているか。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って積極的に鑑賞できているか。	作品 レポート
	「漢字仮名交じりの書」作品制作	題材の内容・用具用材の特徴を理解し、古典学習で習得した技術、鑑賞で得た感動をもとに、創造的工夫を持って書作する。 作品サイズはハガキ。色紙や印も使用する。	○	○	○	○	a:表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいるか。作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っているか。 b:語句の意味を考え、作成時の表現意図が作品に反映されているか。 c:既に習得した技術が、表現に活かされているか。 d:作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じているか。	作品 レポート
	「仮名」作品制作	和歌・俳句を半紙2分の1サイズで散らし書きする。 用筆・運筆を理解し古典に基づく表現を工夫する。 作品の構成を古典を参考に工夫する。	○	○		○	a:積極的に取り組み、技術の習得・工夫に努めているか。 b:仮名の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法・構成法を参考に個性的に表現できているか。 d:日本古来の古典の特徴・美しさを理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。